

Deaf Football

音のないサッカー



Nakai Kento 仲井 健人

昨年行われた「デフサッカーワールドカップ2016」に日本代表として出場。つくばFCネクスト所属。安定した守備を武器に、今季も活躍が期待される。「デフサッカー」と「サッカー」の両方をプレーする彼は、聴力に代わる視野の広さと判断力を日々磨いている。大阪出身。現在24歳。

「小さい頃はどんな子どもでしたか？」
「俺が、俺が」って感じてました。わがままで、自分勝手。なのにクソ真面目で。友達とは、外でよく遊んでたかな。

「大阪から、なぜ筑波大学に？」
筑波大学は心理学が国内でトップクラス。ここで学びたかったっていうのが一つの理由。二つめは、蹴球部が強い。三つめは、障がい学生への支援が整っていること。高校までは自分で聞いて勉強してたんですけど、聴力が悪くなったのもあり大学からは授業での支援がな

「サッカーを始めたきっかけは？」
小学校2年生の時に父からサッカーを教えられたのがきっかけ。それから17年間、ずっとサッカーを続けています。

「現在筑波大学大学院生ですが、何を勉強されているのですか？」
障害科学を勉強しています。教育学・生理学・社会学など、いろんな観点から障害について考えていく。僕の将来の目標は、健常者と障がい者の垣根をなくすことです。垣根とは具体的に言うところ「心理的な距離」のことです。まだ残っている偏見や差別をなくしたいし、また、

「得意なプレーは？」
うーん。特にないです。デフサッカーのみならず言われるのは、一つ目に守備が安定しているということ。二つ目につこいこと。でも自覚ないんですけど、

「サッカーとデフサッカー、違いはありますか？」
一番の違いは、デフサッカーは、選手みんなが聞こえないこと。だからすぐにコミュニケーションをとることが難しい。自分の目で味方や相手の位置を確認して、伝えたいことがあれば、目が合った選手に手話やジェスチャー、ボディランゲージで伝えます。僕はネクスト（つくばFCネクスト）でプレーするときも補聴器を外してプレーするので、一人だけ「デフサッカー」です。周りからの指示は聞こえないから自分で周りを観て判断します。サッカーはデフサッカーと違い、声を出すと味方が気付いてくれるので、そういう意味ではやりやすいです。聞こえない僕は、周りとのコミュニケーションを大事にしています。試合では、連携ミスが失点につながるの、味方にジェスチャーを増やしてもらって、相互にコミュニケーションを図っています。また、試合での連携をスムーズにするために、練習では「どう動くか」をチームメイトと意思確認しながら、やっています。

「たくさん食べると聞いていますが、中でも好きな食べ物は何ですか？」
全部。魚も貝も肉も果物も野菜も大豆も食べるし、レバーは嫌いです。レバー以外はなんでも好き。

「結果は9位でした。日本は最後の一步の勝負強さが足りない。ゴール前での得点や失点に絡む大事な場面で負けてしまうシーンがあり、その辺が世界との大きな差かなと思います。その差を埋める方法の一つは、集中力などのメンタルを磨くことだと思います。今の監督になつてから、連携が上がってきました。レベルの高いチームでプレーしている選手も増えました。全体のレベルは上がってきていると感じています。」



つくばFCネクスト練習風景

「今年7月にはデフリンピックが控えています。」
3月の代表合宿でしっかりアピールしてメンバーに選ばれることが第一目標。選ばれたら、選ばれたメンバーと一緒に優勝を目指して頑張りたいです。

「つくとくばFCネクストは昨季、あと一步のところで県1部昇格を逃しました。振り返ってどんなシーズンでしたか？」
入った当初は練習の人数が少ないことにはびっくりしました（笑）。でも、ネクストは他の2部のチームに比べて上手な選手が多いので、楽しかった。

「昨季は、勝ち点が足りず1部昇格を逃しました。リーグ終盤引き分けた試合で、失点につながるきっかけを作ったのが僕のプレーで、。あのときミスしなければ、という後悔があります。だけど、その経験を今シーズンに繋げていきたいです。」